

【74】リモコンの指示に従わない？

現代文明は、生産、交通（鉄道、航空機、海運）、生活と全ての人間活動の場面で電氣化が進んでおり、しかもそれらを構成する装置や機器を動かし制御するのを離れたところから電氣信号（超音波のこともあるが電氣が介在する）で指示するリモートコントロール（遠隔制御）が当たり前のことになっています。

多数の装置を抱える工場、発電所、鉄道等では中央制御室や運転指令室など一ヶ所の司令塔で状態を監視しながら離れた末端の設備に電氣的な指令を出して運転制御をしています。

スケールは小さいですが、家庭の電化製品や電化された設備でも、ものを直接出し入れする洗濯機、電氣ポット、電子レンジ等は別として、多くがリモートコントロールになりました。

テレビ、エアコンは専門の「リモコン」と称する携帯端末で操作でき、エアコンに到っては装置本体にスイッチが無いタイプが多く、万一「リモコン」を紛失すると運転を停めるのに電源のコードを引き抜くしかありません。

風呂なんかは、リモコンこそありませんが、湯沸かし装置が戸外やベランダに設置してあるので、風呂場からの遠隔制御まさしくリモートコントロールになります。

さて、このように人間活動のあらゆる場面にリモートコントロールが普及してしまったわけですが、このシステムには重大な欠陥があります。

それは指示者の人間から装置や機器への電氣信号が、多くの場合、家庭用では100%一方通行で、指示することは指示したが、果たして本当に装置が正常に作動したのか否か、指示者側にはわからないことです。

一方的に指示したという事実があるだけです。

私の経験でも、風呂に入ろうとボタンを押したら、“お風呂のお湯張りをします。お風呂の栓の閉め忘れに注意して下さい”なんて女性の声（人工音声？）で一人前のことを言うのですが、いくらたっても、肝心の湯が出ず、業者に来てもらって故障とわかりました。

指示通りの操作が出来なかったときはランプでも点いて知らせてくれればありがたいのですが、今のところ一方通行です。

家庭のフロなら笑い話で済みますが、工業レベルになると事は重大です。

3.11 東日本大震災での福島原子力発電所の事故で、中央操作室からの指示通りに原子炉及びその周辺の何百とあるバブルや装置類が正常に機能しているかどうかわからない事例もあり、事故対応に難儀したことが知られています。

とくに原子力の場合は人間が立ち入り困難な場所のバブルや装置類も多いので見に行って確認することが出来ず余計困難性が増したのです。

実はこの事は 1979 年のアメリカのスリースマイル島原子力発電所の事故でも、装置が指示通りに作動していないことに操作員が気付かず、事故が拡大したということがあったのですが、その教訓が生かされませんでした。

重要装置以外の全ての装置やバブル類に、指示に対する実行の确实性の確認を求めることは無理かもしれませんが、その場合は"この装置はオレの言うことを聞いていないかもしれない"という想像力を持つことが重要でしょう。(シロートの私がいうのも変ですが)

現在その進歩が著しい I o T (アイオーティー、Internet of Things) とやらが広く一般化し、家電製品の世界にも普及してくれば、機器が正常に作動しなかったときはその旨を指示者に返事してくれるという時代が間もなく来るといのですが・・・・・・